

## ●令和元年台風第19号について

令和元年10月11日（金）、12日（土）から13日（日）にかけて、襲来した台風第19号により、本市の降水量は、総雨量が244.5ミリ、時間最大雨量が32ミリという結果になった。被害状況については、道路冠水が40箇所、床上浸水19棟（住宅・非住宅含む）、床下浸水172棟（住宅・非住宅含む）となった。避難所開設は23箇所、避難者数2,877名ということからも、今回の台風が非常に脅威であったことが分かる。以上のことから、今回の台風第19号を教訓とすべく、避難者の統計や、市民からの主な意見や今後の対応策について記載する。

## ●避難者の統計について

### 1. 避難傾向

今回の台風第19号では、避難者総数は2,877人となる。

また、荒川の越水も想定されたこともあり、宗岡地区の方が車を利用し、志木地区に避難している傾向が見受けられた。

避難者総数には、市外から避難者42人及び防災協定先避難者96人。

なお、防災協定先については、住所など避難情報が分からない場所もあったので、今後は避難者名簿の統一化が必要である。

### ★宗岡地区住民の避難先

居住地域 \ 避難先	上宗岡	中宗岡	下宗岡
志木地区	72人	182人	53人
宗岡地区	603人	744人	482人
合計	675人	926人	535人
志木地区への割合	10%	19%	9%

### ★志木地区住民の避難先

居住地域 \ 避難先	本町	幸町	館	柏町
志木地区	72人	48人	41人	439人
宗岡地区	0人	0人	0人	3人
合計	72人	48人	41人	442人
宗岡地区への割合	0%	0%	0%	0.6%

※本表は市外からの避難者及び防災協定先の避難者は含まない。

## 2. 性別について

今回の台風第19号は、以下の表を確認して分かるように、男性より女性の避難者が多いという結果が出たことから、今後さらに女性への配慮が必要になってくる。

また、避難者名簿の作成方法が各避難所ごとに異なり、不明者が出てしまったので、今回を教訓に統一した避難者名簿を作成（書式化）する。

### ★性別一覧表

	人数
男性	1,001人
女性	1,330人
不明	546人

## 3. 年齢について

今回の台風第19号は以下の表を確認してみると、多世代の方が避難してきたことが分かる。

また、避難者名簿の作成方法が各避難所ごとに異なり、不明者が出てしまったので、今回を教訓に避難者名簿を書式化しておく。

### ★年齢別一覧表

	人数
0～4歳	137人
5～9歳	155人
10～14歳	177人
15～19歳	138人
20～24歳	87人
25～29歳	106人
30～34歳	112人
35～39歳	172人
40～44歳	202人
45～49歳	180人
50～54歳	140人
55～59歳	75人
60～64歳	58人
65～69歳	68人
70～74歳	134人
75～79歳	170人
80～	144人
不明	622人

## ●本市職員アンケート結果について

本市では台風襲来後、今回を教訓とすべく、災害業務に従事した本市全職員を対象にアンケートを実施。内容は①どの班で何をしたか、②そこで気づいた点・問題点、③解決策、④班以外で気づいた点、⑤その他の5項目で実施し、意見を抜粋したものである。

### ア：災害従事者の絶対的不足

今回のアンケートで一番多かった意見である。台風第19号では、避難所やポンプに携わった職員が休憩をする時間がまったく無い状況下であった。また、台風通過後、すぐに浸水被害があった家屋に伺い、被害認定業務や消毒業務を行った職員は連日の対応になったことから、負担が大きかった。

### イ：台風襲来前の備えについて

今回は、台風襲来前日の8時00分災害対策本部設置、10時00分自主避難所開設、12時00分全職員参集を指示し、台風に備えたが、細かい対応についての意見が多々あった。主にポンプ点検時に指摘したことが改善されていない、消毒用噴霧器の機器及び液体の点検不足、職員自身の食糧の準備、土のうの事前配布の受付などが挙げられる。

### ウ：避難所の運営について

市民との関わりが一番ある場所なので、課題も多い結果となった。主に避難所の運営方法、学校の鍵の問題や避難情報が発令されてから受付に至るまでの準備に苦慮したことや、ペットの問題や垂直避難の指示により体育館から校舎へ避難所が移動したこと、移動系防災行政無線が繋がらないこと、避難所ごとの災害物資の不足、避難をしてくる人に車で来る方が多い、地区災害対策本部員は交代する職員がいないこと、避難所から福祉避難所への搬送などが挙げられた。

### エ：市職員としての心構え

全職員参集ということだったが、来られない職員がいたことや、休憩時間も確保出来ない状況などが挙げられた。

## ●本市職員アンケート結果に対しての改善策について

以下のとおり、次回の台風へ向け改善策を講じる。

### ア：災害従事者の絶対的不足

現状の職員数は変えることは出来ないので、災害対策本部会議を通じ、台風後の業務も考慮し、交代しながら、職員の休憩を確保することに努めていく。

### イ：台風襲来前の備えについて

台風襲来前に通知等を作成し、各部班へ協力をお願いする。

### ウ：避難所の運営について

避難所運営マニュアルに記載してある様式を再確認し、避難者名簿の管理に努める。また、鍵（セキュリティー）の管理など具体的に学校管理者との協議を進めていく。

### エ：市職員としての心構え

災害対策連絡会議を通じ、災害対策本部員より各部班へ周知徹底を行う。

## ●市民からの主な意見や今後の対策について

実際に避難所へ避難をした避難者や、台風第19号襲来後の防災講座等でいただいた意見を抜粋し、対策を記載する。

### 意見1：どこの避難所へ行って良いのかわからない、指定はあるのか

**対策1：**本市では、それぞれの地域ごとによる避難所の指定は行っていない。命が助かる確率が高い避難所への避難をお願いする。しかしながら、避難所が開設されているか確認をしてから避難をしてもらいたい。

### 意見2：町内会や民生委員・児童委員への連絡体制

**対策2：**町内会との連絡体制が確立されていないため、今回の台風第19号を教訓に今後は連絡体制の整備を行う予定である。

### 意見3：市民への情報伝達のあり方

**対策3：**避難所へ避難をしてきた方には、地区災害対策本部を通じ、模造紙等での記入をし、目に見える形での情報共有を図る。また、地区ごとの防災訓練はもとより、広報紙や防災講座等を通じて啓発に努めていく。

### 意見4：避難所の認識不足

**対策4：**福祉避難所とは、体育館などの避難所での生活が困難な人が利用する避難所ということからも、健常者は福祉避難所への避難はしないようお願いする。また、本市の場合、水害や震災時には、まず初めに市内の8小学校を避難所として開設し、その後、順次補助避難所及びその他の避難所を開設することとしている。今回の台風第19号においても、内水氾濫を想定したため、初めに8小学校を開設したところである。その後、荒川の水位が上昇し、越水する恐れがあったことから、避難勧告、避難指示（緊急）が発令され、低い地域にある小中学校も緊急避難建物として校舎へ避難したところである。そのことから、ハザードマップなどを活用し、防災講座や広報紙等を通じて、周知していく。

### 意見5：避難所に駐車場がないこと

**対策5：**水害時には、避難所となる各小中学校の校庭は貯留池となっている所が多く、車を駐車した場合、水に浸かってしまう恐れがあることから駐車場としていない。また、本市は株式会社リクシルビバをはじめ、株式会社マミーマート、株式会社ヤオコーの駐車場についても、災害時における協定を締結し、使用出来ることとなっていることから防災訓練時に周知していく。

### 意見6：避難所開設時期がタイムリーではない

**対策6：**今回の台風第19号では、初めに自主避難所として、令和元年10月12日午前10時に市内の8小学校を開設した。意見にもあった、志木中学校の開設時期だが、本市では、いざ洪水から身を守るためには、「近場の高台」へ避難をすることが大変重要であると考えている。また、柳瀬川が増水し、越水した場合の想定浸水深は0メートルから0.5メートルであり、川沿いの学校であっても校舎の3階以上であれば、「近場の高台」であるとの考えから越水の危機が迫る中、市民の皆さまの命を守るための判断として、志木中学校を避難所として開設した。

### 意見7：防災行政無線を使用した避難情報の具体的な放送について

対策7：避難情報を発令する際には、情報の錯乱を防ぐため、簡潔かつ分かりやすい放送をするよう実施している。また、今回の台風第19号を教訓に町内会との連絡体制を整備し、情報共有が出来るよう努める。

### 意見8：防災行政無線の放送が聞き取りづらい

対策8：本市では防災行政無線が雨の音で聞こえない場合に備え、放送した内容が繰り返し電話で聞ける、防災行政無線テレホンサービス（0800-800-0318）を平成30年より運用しており、さらには、放送した内容がメールで届くメール配信サービスも行っているため、利用促進に努めていく。

### 意見9：避難所でのペットの取り扱い方法について

対策9：本市では、他の避難者の同意のもとに、居室以外の部屋に専用スペースを設ける同行避難ができることになっている。一方で、今回の台風第19号では、避難者の同意を基に同伴を認めた避難所のあったと報告があり、それぞれの避難所で臨機応変に対応できたものと考えている。同伴避難については、アレルギーや動物同士の喧嘩、鳴き声によるストレスなど課題もあるので、敢えて同行避難とするよりも、むしろ、それぞれの避難所において、合意形成を図りながら対応していく。